

鹿児島の昆虫22

春の妖精コツバメ

昆虫担当 中峯浩司

コツバメ *Callophrys ferrea* はシジミチョウ科のなかまで、1年に1回、早春にのみ成虫が見られる春の妖精（スプリング・エフェメラル）の一つとして知られています。

アセビやツツジの生える明るい林縁に生息しますが、同じく春の妖精であるツマキチョウに比べると分布は限られていて、人目に触れることは稀です。

鹿児島では紫尾山や霧島、高隈山、肝属山地に分布し、分布の南限は錦江町田代付近です。薩摩半島では、アセビが多く自生する鹿児島市錫山で2001年、同市内で約40年ぶりに筆者によって発見され、この付近が南限となっています。南薩の亀ヶ丘などにもアセビが自生していますが、今のところ見つかりません。

本種はツツジ科植物を主な食餌植物として

いて、特にアセビを好みます。アセビの花や実を食べて成長した幼虫は、やがて木を降りて落葉下などで



コツバメ

蛹になります。幼虫には小さいうちから共食いの習性があり、特に脱皮や蛹になる前にじっとしている幼虫は襲われやすいようです。しかし、食べられる方の幼虫は抵抗したり逃げたりはしません。おそらく、自然状態で過剰に産卵されたときでも、えさ不足で共倒れしないように、共食いによって数を調整しているものと考えられます。

鹿児島の植物28

道ばたの植物の秘密

植物担当 寺田仁志

寒かった季節が過ぎ、散歩が楽しい肌持ちになりました。いつも歩く道ばたでどんなことに気づきますか。

春になると、冬には目立たなかったのに、草の高さや生えている種類が道の場所によって違いがあるのがはっきりとします。

同じ種類の草でもヒトや車に踏まれる場所とめったに踏まれなかったところでは成長に大きな差が出てきます。植生全体でも道側が低く、踏まれぬ奥側は高くなっています。



ギョウギシバ

その大きな原因は、土の硬さにあります。踏まれることによって土は硬く締まり、土中の空気は少なくなります。植物の根も呼吸を行っているため、酸素が必要です。土が硬く締まっていると酸素が行き渡らず成長が阻害されます。道でよ



チガヤ

く見かけるギョウギシバやチガヤ等の高さで生えている場所に注目するとおもしろいですよ。

道ばたは高い草が生えているといろいろ支障があり、たびたび草刈りが行われます。

刈り取られた上部は枯れ、下部は生き残ります。植物の体でより地下部の割合が大きな植物は生き残り、すばやく芽を出して立ち上がり勢力を張ることができます。道ばたに地下茎の発達するチガヤや地表すれすれに茎を伸ばすシバ、ギョウギシバなどの植物が多かったり、時にはマツバウンランやネジバナなどを目にしたりするのはこのためなのです。



マツバウンラン



ネジバナ